

令和3年 第837回小浜市教育委員会定例会 会議録

開催日時	令和3年11月19日(金)		開会 15:30 閉会 17:00		
開催場所	市庁舎4階 401会議室				
出席委員	窪田教育長	山崎職務代理者	上田委員	村上委員	桂田委員
欠席委員					
事務局	教育部長	教育部次長 (生涯学習スポーツ課長)	教育総務課長	福田GL	高鳥GL
	小坂企画主査				
傍聴者					
会 議				会議の結果	

**委員会開会**

(教育長) 宣言および開会あいさつ

**1 会議録の承認について**

第836回教育委員会定例会会議録〈承認〉

**会議録署名人2名の選任**

第837回教育委員会定例会会議録署名委員選任〈山崎職務代理者、村上委員〉

**2 報告**

・報告第14号 諸般の報告 令和3年10月15日～令和3年11月18日

## 令和3年 第837回小浜市教育委員会定例会 会議録

行事予定 令和3年11月19日～令和3年12月31日《承認》

- ・報告第15号 小浜市教育委員会の事務の管理および執行状況の点検・評価について

《承認》

上田委員 評価委員の意見の中で「旭座落語会と小浜の食のコラボ事業」、「ちりとてちんホームグラウンド事業」は、旧文化課が文化財保護法の改正を受けて取り組んでいた事業で、生涯学習スポーツ課の事業としては違和感があるということであるが、この評価委員の見解についてどのように考えているのか。

事務局 この事業の目的の交流人口の増加とあることが、生涯学習スポーツ課が取り組む事業としては違和感があり、市長部局の観光課などが取り組む事業ではないかということである。機構改革により、旧文化課が所管していた文化事業が生涯学習スポーツ課の所管となり、当該事業も担当することになったが、当該事業の目的は、交流人口の増加だけではなく、落語のまちとして社会教育活動を広げていくという側面もあることから取り組んでいるところである。

上田委員 今後も生涯学習スポーツ課が当該事業を推進していくのか。

事務局 社会教育活動を広げていく活動として今後も検討しながら継続していきたいと考えている。

上田委員 評価委員の意見の中で、ふるさと教育の取り組みに良い評価をされていることから、今後も継続して取り組んでいただきたい。

窪田教育長 今年度の全国学力学習状況調査の質問紙調査の中で、「地域行事に参加しているか」、「地域をよくするために何をすべきか考えることがあるか」という2項目について、小学生、中学生とも本市は県平均、全国平均を上回る結果となった。このことが高校生の質の高い探求学習につながっているのではないかと考えている。

山崎職務代理者 評価対象事業のスクールバス運行事業は、国の補助が学校統合後5年間は受けられることができるが、それ以後は市の一般財源で対応しなければならないということである。今後に向けて事業費の圧縮などはできないのか。

事務局 スクールバス運行事業は、ご指摘のとおり国の補助を受けることができるのは学校統合後5年間という期限がある。現在は、市内2社の運行業者により、スクールバスの運行を委託しているが、今後の経費削減策として、従来の契約形態に限定せずにスクールバスを運行させることも検討している。

上田委員 市内外の業者との比較などはしているのか。

事務局 バスの運行経費は、運輸局の示す価格に基づいて積算している。事業所から目的地までの往復距離および運行時間にそれぞれ、運輸局が示す単価を乗じた額としている。市外の業者は、市内の業者よりも距離や時間が増えるため、現行の契約上では市内の業者と契約することが有利であると考え。ただし、現行の契約では登校と下校をそれぞれ分けて運輸局の示す運行時間と時間単価を乗じた契約額としているが、運行業者との交渉の中で合意が得られれば、登下校を一つの運行形態とした契約額とすることもできるということになっている。この点について市内外の業者との交渉をしていこうと考えている。

上田委員 ガソリンなどの燃料費が高騰している状況であるが、契約額に加算されることはあるのか。

事務局 運輸局が示す価格に基づく契約額であるため、運輸局の価格が改定されない限り加算されることはない。現在は燃料費の高騰に伴って価格が改正されるということは聞いていないが、このような状況が続く場合、価格に影響されることも考えられる。

村上委員 閉校4校管理諸経費の事業の今後の方針として、教育委員会から所管が市長部

局に移管されるということであるが、現状はどのような状況なのか。

事務局 閉校4校管理諸経費は、小浜美郷小学校が開校し、旧4小学校は閉校となったことで閉校4校は行政財産から普通財産になっている。閉校後令和2年度までは、閉校4校にある備品等の整理のため教育委員会が所管していた。令和3年度からは、閉校4校の利活用を検討するというので、市長部局が所管となっている。現在2校については利活用の方針が定まったと聞いている。

村上委員 施設の利活用は市が検討しているのか。

事務局 地元が施設の利活用を検討している。

窪田教育長 小浜美郷小学校が開校して今年度で3年目になっている。現在、小浜美郷小学校開校までの取り組みの検証を様々な角度から行っているところである。先日委員の皆様へ報告した全国学力学習状況調査の結果もその一つである。また、今後多くの児童がバスを使って登下校をすることで、児童の体力面がどのように影響していくのかということも検証の一つとなってくると思う。通学範囲が広範囲になることによって、スクールバスを利用することが予想される。学校では、児童の体力づくりに取り組んでいるが、6年間の徒歩による通学をしないことに対する保護者の意見も踏まえることも重要であると考えている。様々な協議を経て開校した学校の取り決めを見直すことは難しいと思うが、検証していくことは重要であると考えている。

### 3 議案

- ・議案第27号 令和3年12月補正予算の要求について《承認》
- ・議案第28号 小浜市学校教育応援基金設置条例の制定について《承認》

上田委員 株式会社幸池商店様（今回の寄附申出者）から寄附金の使途など具体的な意向はあるのか。

事務局 株式会社幸池商店様からは、学校を限定することや事業を限定するなどの指定はなく、学校教育のために使ってもらいたいというものであった。

このような意向を踏まえ、未来を担う児童生徒の人材育成や教育環境の整備などに使用したいと考えている。

上田委員 継続した寄附金が得られなければ、基金設置の意味をなさないと考えるが、寄附を募る方法などはあるのか。

事務局 今後の方針としては、教育費予算が今後も、ICT教育環境の整備など需要が高まることになる中、市の税収にも限りがあり、教育委員会として自主財源の確保が必要になってくる。その一つとして、ふるさと納税やクラウドファンディングも想定しているが、寄附申出者を募る呼びかけを広く取り組んでいきたいと考えている。その方法として、今回設置する基金の趣旨説明と学校教育に対する支援求めることを地元企業や商工会議所などに行っていきたい。

事務局 幸池商店様のような意向で申し出ただけの企業や団体などを募っていききたいと考えている。このため、寄附したことを実感していただき、できれば継続して支援していただけるような仕組みとして、寄附者が学校教育の諸事業に参画していただきたいと思っている。ふるさと教育事業の場合では、各学校で実施するふるさと教育の内容を各学校が発表し審査することがあるが、この審査員やふるさと教育の講師になっていただく、また、ジュニアキッチンの事業の場合では、子どもたちと一緒に調理体験をしていただくなどを考えており、その様子を広報することにより、新たな寄附申出者が広がることにつなげていきたいと思っている。このほか、市外の企業や団体等に対しても、ホームページによる広報や各所に出向いて本市の学校教育を支援する輪が広がっていきけるように努力していきたいと考える。

窪田教育長 教育費予算の財源確保に力を入れていきたいと考えている。

上田委員 学校教育を支援する輪が広がっていけば、基金設立のきっかけとなった株式会社幸池商店様も喜ばれると思う。

- ・議案第29号 令和4年度採用小浜市奨学資金貸付選考委員会委員の推薦について  
    《山崎職務代理人、村上委員を推薦》

#### 4 教育長報告

- ・教育再生首長会議の内容について

11月17日に開催された教育再生首長会議に市長が公務により出席できなかったため代理で出席した。元文部科学副大臣で現在は東京大学公共政策大学院教授の鈴木寛氏の「自治体における教育政策」という講演を拝聴した。講演の中で、新学習指導要領の理念の実現に向けて、地方の方が都市部に比べ、解決しなければならない課題が多く、探求学習においては最高の環境にあると言え、現在全国で取り組まれている探求学習の中で特に注目する高校として、若狭高校が紹介された。若狭高校は、小浜市から最も多くの中学生が進学し、学びを深めているということから子どもたちにとって大変励みになると思っている。特に新学習指導要領の目玉である資質能力の育成に向けて、小浜市では小学校、中学校、高等学校の12年間の接続を重視した教育を推進している。その中で小中学校の児童生徒と高校生の学習を通じた交流も近年盛んに行っている。小中学校の児童生徒にとって、高校生の姿が憧れになりつつあり、目標になってきている。今後、この12年間の接続が大きなものになると同時に、小学校、中学校のそれぞれの段階に応じたカリキュラムマネジメントも新学習指導要領の中で重視されている。現在、若狭高校では、課題設定能力の育成を目標に掲げて取り組まれている。育成をめざす資質能力の1つに問題解決能力というものがある。問題解

決能力は大きく分けると3つのステージに分けられる。1つ目は、問題を発見する力で、明確なビジョンを描く中で現状の中から問題点を見出していくことが求められる。2つ目は、課題設定能力で、目標と現状のギャップを埋めていくために、課題設定は不可欠で重要なプロセスとして位置づけられる。3つ目は、課題解決のための方略で、情報を収集する力や収集した情報を加工する力、新たな情報を作り出していく力、他者へのプレゼン力などが求められる。これら3つの資質・能力は、いずれも小学校段階からスパイラルに育成していくべきものであるが、小・中・高の各段階でそれぞれ育成の重点は変わってくる。一番育成が困難と考えられるものは、問題を発見する力であり、一番身に付けやすいものは、課題解決のための方略であろう。小中学校では、基礎にあたる課題を解決するスキルをたくさん持つことに重点を置き、高校段階では課題を設定する力をつけていくことに重点をシフトしていくことが必要であると考え。問題を発見する力は大学や社会人になってゴール・目標に近づいていくものと思う。若狭高校では、小中高12年間のゴールとして課題設定能力の育成を明確に示しているため、そこを目指して中学校・小学校と遡りながら、カリキュラム・マネジメントしやすくなっていると思っている。今後、高校との連携を一層深めながら、その接続を大切にして、子どもたちにつけていく資質能力を校長会などを通じて市内全小中学校が共有できるようにしていきたいと思っている。

## 5 その他

令和4年成人式の開催について

事務局 今月25日発行の市政広報に掲載予定

開催日時 令和4年1月9日（日）12時15分 受付開始

会場 小浜市文化会館大ホール

開催形式 1会場1開催（昨年度は2部制で実施。今年度は1部制。）

## 令和3年 第837回小浜市教育委員会定例会 会議録

対象者 約300名（新成人のみ来場可。保護者の来場は不可。）

コロナ対策 来場者の手指消毒、検温、問診票の提出を義務付ける。

会場の座席指定（市内12地区に分ける）

県外者への対応

緊急事態宣言が発令された地域からの来場自粛の呼びかけ

当日のライブ配信実施

対象者への案内 今月下旬～12月初旬に発送

中止の場合の基準 福井県、全国的に緊急事態宣言が発令された場合

小浜市内で感染者が広がった場合

村上委員 小学校の遊具について、今富小学校では、鉄棒を除く遊具には使用できないようにするためのテープが巻かれており、撤去されると聞いている。コロナ禍の中で、室内になかなかいることができず、学校生活の中でも休み時間には外にでて遊具を使用したり、体育などの授業で使用することもあると思う。教育委員会の見解として、遊具は必要ないのかどうかということを知りたい。

事務局 学校施設に設置している遊具の点検を実施した結果、現在の基準に合わない遊具など現状では使用できない遊具について撤去していく。これは危険を回避するためのものであり、遊具が必要でないということで撤去するものではない。今後、学校から遊具を設置することについて要望があれば検討していく。

村上委員 撤去した後、学校からの要望がなければ遊具は設置しないのか。

事務局 設置する予定はない。

村上委員 保育園児や放課後に子どもたちが遊んだりという需要はあると思うが、設置しないのか。

上田委員 まったく設置していかないのか。



事務局 学校からの要望があり、また、設置する財源が確保できれば設置を検討していく。

上田委員 ほかの学校でも、休み時間などに遊具を使って遊んでいる姿を見るが、更地にしておいておくのか。

窪田教育長 学校からは様々な要望が教育委員会に寄せられているが、現時点で学校からは遊具の設置についての要望はない。

桂田委員 要望してもよいということになっていないと要望してこないと思う。

窪田教育長 毎年、校長会が各学校の声を集約した形で要望事項を取りまとめた要望書を提出してくる。その要望書に対して教育委員会が回答している。要望に対して充てられる財源にも限りがあり、要望の内容を踏まえて、緊急性などの優先度を検討し、回答している。学校から遊具が学習活動に必要であると強く要望されれば、教育委員会としても重点的に取り組んでいこうと受け止める。

上田委員 ほかの小学校では現状で使用できない遊具はどうなっているのか。

事務局 市内すべての小中学校で遊具の点検を実施し、その結果、現状で使用できない遊具については撤去していく。

上田委員 撤去してすぐに、設置することは難しいと思うが、少しずつでも設置することはできないのか。

窪田教育長 老朽化に伴う学校施設での事故が全国で発生している。これまで、教員が月に1回、学校安全点検の日というものを設定し、教員が目視と実際に使用してみて確認しているが、専門家ではないため事故の発生につながる懸念はある。また、設置には多くの予算が必要になる。このような現状で学校としては、緊急度、要望度の高いものを要望してくるため、遊具の設置要望がないのではないかと思う。全国的にも学校から遊具は少なくなってきた。遊具については非常に難しい問題もあるが、よりよい学校教育環境を目指すということで、今後検討していくべき課題ではあると考えている。

**委員会閉会**

(教育長) 宣言

この会議録が真正であることを確認して署名する。

小浜市教育委員会議事録署名委員

委 員 山崎正博 教育長職務代理者

委 員 村上郁子 教育委員